

# 京都大学構内遺跡調査研究年報

2007年度

京都大学文化財総合研究センター

## 序

本年報は、2007年度に文化財総合研究センターがおこなった、大学敷地内の遺跡調査の報告と、それに関連する研究成果をまとめた紀要とからなっている。当センターが大学敷地内に残る遺跡の発掘調査を開始して、35年目をむかえようとしているが、この間に、先史時代から近世にいたる長い歴史を刻んだ資料を収集して、その調査成果を年次報告書や発掘調査報告書として刊行し、新たな情報を加えながら北白川一帯の地域を中心にした歴史の復元を試みてきた。

第Ⅰ部で報告する2件の発掘調査は、いずれも病院構内の建物新営工事にもなって実施したものである。比叡山西麓に近い吉田キャンパス北部と比較すると新しい時代に開発された一帯である関係から、おもに中世から近世の人の活動を示す遺跡が残されており、とくに水田や畑あるいは道路跡など、土地利用に関する資料を具体的に得ることができた。また第Ⅱ部の紀要では、北白川地域を中心とした京都盆地東北部において明らかにされている古代の遺跡の状況を整理し、当時の集団の活動を包括的に復元しようと試みたものである。ご高覧いただき、ご批判を賜れば幸甚である。

また、第1章で報告した和歌山県瀬戸遺跡の立会調査は、瀬戸臨海実験所構内の建物新営工事にもなうもので、奈良時代の土坑と土器が発見され、過去の調査で明らかにされた製塩作業を示す遺構などとともに、この遺跡の古代に関する新たな情報を得ることができた。なお、この調査は白浜町教育委員会に依頼し、佐藤純一氏が担当されてその成果を第3節で報告していただいた。感謝申し上げます次第である。

おわりに、この年報で報告した調査を進めるにあたっては、学内学外の多くの関係者および調査機関からご指導をいただいた。とりわけ、発掘を実施するにあたってご協力を賜った、施設環境部、医学部および附属病院、フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所の関係各位に、厚くお礼申し上げます次第である。

2010年3月

京都大学文化財総合研究センター長

上原真人

## 例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で2007年4月1日から2008年3月31日までに発掘、整理作業をおこなった埋蔵文化財調査と保存の報告、および京都大学文化財総合研究センターにおける研究成果をまとめたものである。
- 2 国土座標にしたがって一辺50mの方形の地区割りをして、遺跡の位置を表示した。
- 3 層位と遺構の位置については、国土座標第Ⅵ座標系（日本測地系、 $x = -108,000$   
 $y = -20,000$ ）が（ $X = 2,000$   $Y = 2,000$ ）となる京都大学構内座標により表示した。
- 4 遺構の略号は、奈良文化財研究所の方式にしたがって、井戸：SE，土坑：SKのように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物には、遺跡の調査名を示すローマ数字と、調査ごとの通し番号を1から付した。この遺物番号は、本文、実測図、写真を通じて表示を統一した。  
Ⅰ：和歌山県瀬戸遺跡の立合調査  
Ⅱ：京都大学病院構内AG16区の発掘調査  
Ⅲ：京都大学病院構内AF14区の発掘調査  
（例 Ⅰ1：和歌山県瀬戸遺跡出土遺物1番）
- 6 原則として、遺物の実測図は縮尺1/4、遺物の写真は約1/2に統一した。他の縮尺のもの、それぞれに縮尺を明記した。
- 7 参考文献は、本文中に〔著者名 発表年〕の形式で表わし、巻末に一括した。
- 8 古代・中世土師器の型式分類は、とくにことわりがない場合、『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅱ』（1981年）にしたがっている。
- 9 本文の執筆者名は各章の初めに列記した。また、遺物の撮影は、それぞれ報告者が担当した。
- 10 編集は、千葉豊が担当し、清水芳裕、伊藤淳史、富井眞、笹川尚紀、磯谷敦子、柴垣理恵子が協力した。

京都大学構内遺跡調査研究年報 2007年度

目 次

第 I 部 京都大学構内遺跡発掘調査報告

第 1 章 2007年度京都大学構内遺跡調査の概要	1
1 調査の経過	1
2 調査の成果	1
3 和歌山県瀬戸遺跡の立合調査	3
第 2 章 京都大学病院構内 A G 16区の発掘調査	5
1 調査の概要	5
2 層 位	5
3 遺 構	11
4 遺 物	22
5 小 結	49
第 3 章 京都大学病院構内 A F 14区の発掘調査	55
1 調査の経過	55
2 東調査区の発掘成果	56
3 北調査区の発掘成果	67
4 西調査区の発掘成果	79
5 小 結	80
参 考 文 献	81
京都大学構内遺跡調査要項	83
報 告 書 抄 録	91

## 第Ⅱ部 京都大学文化財総合研究センター紀要ⅩⅩ

### 鴨東の古代

——古墳～奈良時代の遺跡調査成果からみた集団動態——

- |   |                           |     |
|---|---------------------------|-----|
| 1 | はじめに .....                | 95  |
| 2 | 京都大学吉田キャンパスにおける調査成果 ..... | 96  |
| 3 | その他の地区における調査成果 .....      | 108 |
| 4 | 遺跡の消長とその背景 .....          | 116 |

図 版 .....

卷末

## 図 版 目 次

- 図版 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 図版 2 京都大学病院構内 A G 16区
- 1 灰褐色土掘削後の全景（東から）
  - 2 茶褐色土 I 掘削後の全景（東から）
  - 3 完掘後の全景（東から）
- 図版 3 京都大学病院構内 A G 16区
- 1 井戸 S E 3（北から）
  - 2 井戸 S E 6（北から）
  - 3 井戸 S E 7（南から）
  - 4 井戸 S E 8（西から）
  - 5 井戸 S E 12（西から）
  - 6 溝 S D 28と石垣（北から）
- 図版 4 京都大学病院構内 A G 16区
- 1 木組み S E 11（南から）
  - 2 集石 S X 6（北から）
  - 3 集石 S X 7（北から）
  - 4 井戸 S E 10（西から）
  - 5 土坑 S K 2（南から）
  - 6 井戸 S E 4（北から）
- 図版 5 京都大学病院構内 A G 16区
- S E 8 出土遺物(1)
- 図版 6 京都大学病院構内 A G 16区
- 1 S E 8 出土遺物(2)
  - 2 S E 8 出土遺物(3)
- 図版 7 京都大学病院構内 A G 16区
- 1 軒 瓦
  - 2 S E 8 出土瓦の細部
- 図版 8 京都大学病院構内 A F 14区
- 1 東調査区中世遺構全景（西から）
  - 2 北調査区近世遺構全景（南から）
  - 3 西調査区近世遺構全景（東から）
- 図版 9 京都大学病院構内 A F 14区
- 1 北調査区, 道路 S F 1（北から）
  - 2 北調査区, 道路 S X 1（南から）
  - 3 北調査区, 道路 S X 1（西から）

図版10 京都大学病院構内A F 14区

- 1 東調査区, 集石S X 3 (西から)
- 2 東調査区, 集石S X 4 (東から)      3 北調査区, S D 7 (東から)
- 4 S D 7 遺物出土状況 (西から)
- 5 北調査区, S D 1・S E 1 (南西から)
- 6 S D 1 細部 (東から)

図版11 京都大学病院構内A F 14区

- 1 東調査区出土遺物
- 2 北調査区出土遺物

図版12 京都大学吉田南構内A O 22区検出の古墳～奈良時代遺構

- 1 古代・中世遺構面全景 (西から)
- 2 6号墳周溝ほりあげ全景 (南西から)
- 3 奈良時代土器溜S K 21 (東から)
- 4 奈良時代掘立柱S B 1柱穴検出状況
- 5 奈良時代井戸S E 30 (南から)

図版13 京都大学吉田南構内A O 22区出土の古墳時代遺物

6号周溝墳出土遺物, 古代以降の遺構・包含層混入遺物

図版14 京都大学吉田南構内A O 22区出土の奈良時代遺物

黒褐色土出土遺物, S K 21出土遺物, S K 104出土遺物, S K 105出土遺物  
平安時代以降の遺構・包含層混入遺物

## 挿 図 目 次

<b>和歌山県瀬戸遺跡の立合調査</b>	
図1	立合調査地点……………3
図2	2007-2地点東壁の層位……………4
図3	出土遺物……………4
<b>病院構内A G16区の発掘調査</b>	
図4	近世II期の遺構と 土層断面観察部の位置……………6
図5	東壁と南壁の層位……………7
図6	南辺攪乱北壁の層位……………8・9
図7	中世の遺構……………12
図8	井戸SE3……………13
図9	井戸SE6……………14
図10	井戸SE7……………16
図11	井戸SE8……………17
図12	近世I期の遺構……………18
図13	井戸SE4・10……………20
図14	縄文～古墳時代の遺物……………22
図15	SE3, SE6, SE7, SE8出土遺物……………24
図16	SE12, SE13出土遺物……………26
図17	SE8出土の軒丸瓦・丸瓦……………27
図18	SE8出土の丸瓦……………29
図19	SE8出土の軒平瓦……………30
図20	SE8出土の軒平瓦・平瓦……………32
図21	SE8出土の平瓦……………34
図22	SE11, SE10出土遺物……………36
図23	SE14, SK1, SK2出土遺物……………37
図24	SX5, SX6, SX7, SX9出土遺物……………38
図25	拳大集石出土遺物……………40
図26	SD3, SE1, SE2, SE4出土遺物……………41
図27	褐色土, 茶褐色土II出土遺物……………42
図28	土石流堆積物, 茶褐色土I出土遺物……………44
図29	灰褐色土出土遺物……………45
図30	瓦……………46
図31	泥面子(1)……………47
図32	泥面子(2)……………48
図33	井戸SE3・6・7の 礫の組み上げ順序……………53
<b>病院構内A F14区の発掘調査</b>	
図34	調査区の位置……………56
図35	東調査区北壁の層位……………57
図36	東調査区検出の遺構……………58
図37	SX4出土遺物……………60
図38	SX4上層, SE7出土遺物……………61
図39	SK10, SX3, SX2, SK6, SK11, SD11, SK9出土遺物……………62
図40	SK9, SD14出土遺物, SD10, SD12出土遺物……………63



図41	S D 13, S D 13上層(1) 出土遺物……………64	古墳～奈良時代遺構……………97	
図42	S D 13上層(2)出土遺物……………65	図61	吉田二本松 6 号墳……………98
図43	黒褐色土・近世遺構出土遺物…66	図62	井戸 S E 30……………99
図44	北調査区西壁・北壁の層位…………67	図63	建物 S B 1……………100
図45	北調査区検出の遺構……………69	図64	A O 22区出土古墳時代 須恵器・埴輪……………101
図46	S D 7, S D 9 出土遺物……………71	図65	S E 30, 黒褐色土出土遺物 ……………103
図47	S K 1, S D 6, S F 1 出土遺物, S X 1 最下層出土遺物……………72	図66	S K 21, S K 104, S K 105, S B 1, 平安時代以降の遺構 および包含層からの出土遺物 ……………104
図48	S X 1, S D 8 出土遺物……………73	図67	京都大学吉田キャンパス構内の 古墳～奈良時代関連調査地点 ……………107
図49	S X 1 出土遺物……………74	図68	吉田南構内～本部構内南辺検出の 奈良時代遺構……………109
図50	S D 3, S K 6, 茶褐色土出土遺物……………74	図69	古墳～奈良時代関連遺跡と 調査地点(その1)……………112
図51	S E 4 出土遺物……………75	図70	古墳～奈良時代関連遺跡と 調査地点(その2)……………113
図52	S D 1, S E 1 出土遺物……………76	図71	鴨東地域の古墳～奈良時代 遺跡時期別分布……………117
図53	S D 1(2)出土遺物……………76	図72	鴨東地域周辺に比定される 諸郷の位置関係……………119
図54	黒褐色土出土遺物……………77		
図55	表土・攪乱出土遺物……………78		
図56	西調査区の層位……………79		
図57	西調査区検出の遺構……………79		
図58	黒褐色土出土遺物……………80		
鴨東の古代			
図59	本稿の対象地域……………96		
図60	A O 22区とその周辺の		

## 表 目 次

表 1	京都大学構内のおもな調査……………84
-----	---------------------

表 2	鴨東地域の遺跡と調査地点……………122
-----	----------------------

## 第 I 部 2007年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第1章 2007年度京都大学構内遺跡調査の概要

第2章 京都大学病院構内AG16区の発掘調査

第3章 京都大学病院構内AF14区の発掘調査

## 第Ⅱ部 京都大学文化財総合研究センター紀要ⅩⅩ

鴨東の古代

——古墳～奈良時代の遺跡調査成果からみた集団動態——

伊藤淳史

2010年3月31日 発行

京都大学構内遺跡調査研究年報  
2007年度

編集 京都大学文化財総合研究センター  
発行 京都市左京区吉田本町  
印刷 三星商事印刷株式会社  
製本 京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町300